

関連する『つまずきポイント』

- ②目的と表現の関係をとらえること
- ⑥共通点や相違点を意識すること

話すこと・聞くこと領域

相手の意図をつかみながら、目的や意図を意識して話すこと

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

豊岡市立田鶴野小学校の実践

第6学年 話し手の意図をとらえながら、自分の考えを明確にして助言すること

第5学年 相手の意図をとらえながら聞き、目的に応じて、自分の考えを話すこと

第4学年 大事なことを落とさずに聞き、工夫されたメモを取ること

第3学年 相手の一番伝えたいことをとらえ、考えの共通点・相違点を見つけながら話し合うこと

第2学年 大事なことを落とさずに聞き、友達の内容を深める質問をすること

第1学年 大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけること

	身に付けさせたい力の系統	各段階におけるつまずき
高学年 (5・6年)	話の要点にふれた上で、自分の考えを盛り込みながら、感想や意見を述べることができる。	相手の意図をとらえながら聞き、目的に応じて、自分の考えを話すことができない。
中学年 (3・4年)	話の中心に気を付けて聞き、ねらいをはっきりさせて、質問したり感想を述べたりすることができる。	相手が一番伝えたいことについて、質問したり感想を述べたりできない。
低学年 (1・2年)	組み立てを考えて話したり、大事なことを意識して聞き、わからないことを質問したりすることができる。	順序立てて話したり、大事なことから質問を見つけたりすることができない。

つまずき解消に向けた取組の視点

- ①見通しをもたせるようにモデルを示す。
→上手な言い方や質問の仕方などを理解することができる。
- ②メモを取る習慣を付けさせる。
→思考が整理されて意見もちやすくなる。
→聞くという活動のあいまいさを乗り越えることができるようになる。

話すこと・聞くこと

第1学年

大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

知りたい情報を聞き取れず、インタビューが続けられない。

元の質問に戻ってしまっている。

A：今、一番楽しいと思っていることは何ですか？

B：ピアノです。

● A：わかりました。

● A：ピアノは楽しいですか？

実践の概要

単元名

きいて しらせよう

『ともだちに、きいてみよう』光村図書

目標 大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができる。

内容 ・友達に聞いてみたいことを話し合う。

・2人組でインタビューをし合う。

・インタビューしたことを、みんなに知らせる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・「いつ」「どこで」「だれと」など5W1Hの情報を相手から入手するためにインタビューし、臨機応変に質問したり答えたりすることができる。
- ・インタビューでわかったことを知らせたり聞いたりする活動に意欲的に参加し、友達により高い興味・関心をもつ。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

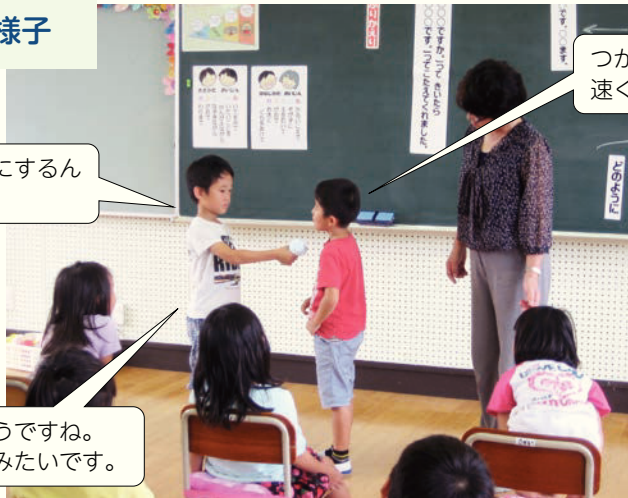
付属CDや、インタビューを続けるのが上手な児童をモデルとして提示する。

活動のねらい▶ ・どんなふうに切り返せば、インタビューが上手くつながるかがわかる。

ここが
ポイント

まず、付属CDの声量や口調を真似る学習をして、ある程度「インタビュー」の形態を整える。その中で、相手の答えに対して自分の感想などを言ったり、答えを聞いてさらに詳しくたずねたりする部分が難しい。そこで、実際に切り返しができている児童にモデルとしてインタビューをさせる。この時、質問する側もその場で答えられる児童を選ぶ。ペアのモデルを提示して、インタビューの面白さを伝える。

授業の様子



どんなふうにするんですか。

つかまらないように、速く走ります。

おもしろそうですね。ぼくもしてみたいです。

(期待される児童の姿)

相手の発言に合わせて質問したり答えたりできる児童をモデルとして提示することで「質問のバリエーションが多く、自然な切り返し等ができていいるインタビュー」を具体的にイメージできる。また、自分もしてみたいという意欲も高まる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

「いつ」「どこで」「だれと」など、5W1Hが情報に入っているかを聞き取るよう指導する。

活動のねらい▶ ・知りたい情報の基本的な事項を意識することで、大事なことを落とさずに聞いたり、質問したりすることができる。

ここが
ポイント

5W1Hは、日記やスピーチなどで日常的に意識させる。その上で、インタビューの場面でも利用できることを知らせる。インタビューを受けるときにも、5W1Hを記入したメモを用意させる。インタビュー後のワークシートも、5W1Hの項目別に記入できるように枠を作る。

授業の様子



項目：いつ・どこで・だれと・どのように・そのほか(気持ちなど)

インタビューしたことを書いておこう。これで、みんなに知らせられるぞ。

(期待される児童の姿)

「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」という情報を聞き出すとよいことを知り、ここから話題に入っていける安心感をもって質問につなげられる。また、求めている情報が手に入ったかの判断材料にすることもできる。

話すこと・聞くこと

第2学年

大事なことを落とさずに聞き、友達の内容を深める質問をすること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。



話し手: この道具は、お母さんが困っているときに使います。

質問内容が観点に基づいていない。

聞き手: お母さんは、他にどんなことで困っていますか？

話し手の内容も明確でないため、どこがいいのか具体的に言えない。

聞き手: そんな道具を考えられてすごいです。

実践の概要

単元名

つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう
『あったらいいな、こんなもの』光村図書

目標 友達の話を読み、質問したり、感想を述べたりすることができる。

- 内容
- 観点に基づき、あったらいいなと思う道具を考える。
 - 観点に基づいて質問やアドバイスをする。
 - 増えた情報を聞く人がわかりやすくなるように整理する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- 観点を明確にすることで、聞き手が道具の内容からずれない質問ができる。また、聞き取りシートを活用し、どの児童も話し手に質問できる。
- 話し手は、道具の説明の観点を明確にすることにより、聞き手がわかりやすい具体的な道具を考えることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

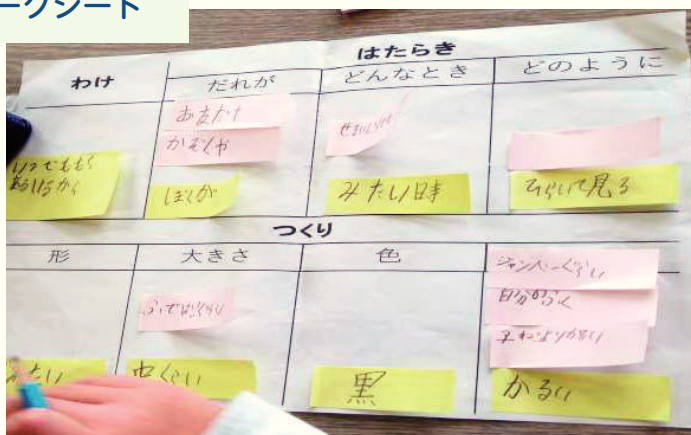
観点ごとに枠を設けたワークシートを用意し、読み取ったことを付箋で整理させる。

活動のねらい ▶ 聞き手は質問する観点を焦点化することができ、話し手は情報を付箋に残すことで、必要なものを取捨選択しやすくなる。

ここが
ポイント

「あったらいいな」と思うものについて、どんなことが説明できたら、聞き手にわかりやすく伝わるかを3観点で示す。付箋に自分の考えた情報を書き、観点ごとに分けられたワークシートに貼る。自分で考えた情報と、人から質問されたりアドバイスをもらったりして増えた情報では付箋の色を変える。付箋にすることにより、情報の整理がしやすくなる。

ワークシート



(期待される児童の姿)

話し手は付箋にメモを残すことで、どのような情報が付け加えられたのか、何が足りないのかが視覚的に理解できる。また、情報を取捨選択、分類する学習の際、付箋にすることで、どの児童も活動を容易に進めることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

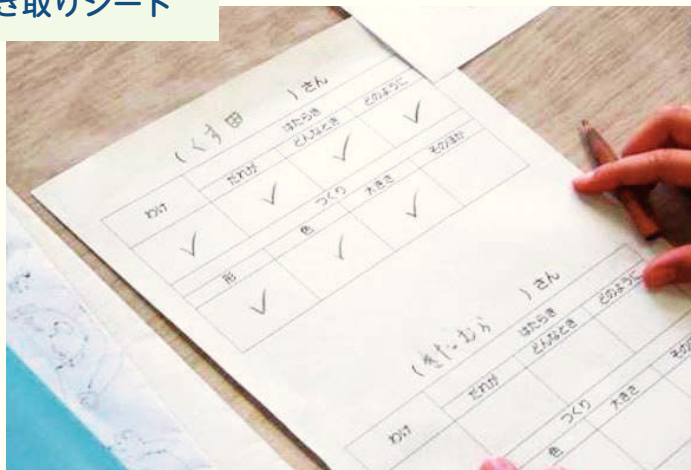
話し合いの際の聞き取りシートを用意する。

活動のねらい ▶ 聞き手が質問やアドバイスをするための観点を見つけやすくする。

ここが
ポイント

聞き取りシートは観点ごとに分ける。話し手の内容を聞き、話し手が説明した観点にはチェックを付け、質問したいことやアドバイスをしたい観点には「？」マークなどを付けるようにする。→わかっていることと、わからないことを視覚的にわかるようにすることで、見通しをもって質問やアドバイスを行うことができる。

聞き取りシート



(期待される児童の姿)

聞き手は、聞き取りシートにより、話し手が説明できていない観点や、はっきりしない部分が明確にわかり、進んで質問することができる。2年生にとって、メモ（聞きながら書くこと）は難しいが、チェックを入れる活動は抵抗なく行うことができる。

第3学年

話すこと・聞くこと

相手の一番伝えたいことをとらえ、考えの共通点・相違点を見つけながら話し合うこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。

【学校生活について幼稚園児に知ってもらうため、説明内容を話し合う場面】



ぼくは、本の借り方について説明したらいいと思います。

わたしは、どんな本があるか説明したいです。

わたしは、どうやって本を借りるかを教えてあげたいです。

「言い方の違い」と「考えの違い」との区別がつかず、考えが共通している意見でも、別の意見として扱っている。

実践の概要

単元名

幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう

『つたえよう、楽しい学校生活』光村図書

目標 互いの考えの共通点・相違点を見つけ、それをいかして合意形成の話し合いを行うことができる。

- 内容
- ・上手な話し合いの仕方をまとめる。
 - ・話し合いを行い、より上手な話し合いになるよう見直しをする。
 - ・見直しを受けて再度話し合いを行う。
 - ・話し合ったことをもとに発表会を行う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・話し手の一番伝えたいことをとらえ、考えの共通点や相違点を見つけることができる。
- ・見つけた共通点や相違点をもとに合意形成や次の話題の提示を行い、話し合いにいかすことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

話し合いの様子を客観的に見る活動を行う。

- 活動のねらい▶
- 考えの共通点や相違点を的確にとらえる。
 - 話し合いを行う上での、共通点や相違点を見つけることの必要性に気付く。

ここがポイント

- ①事前にモデルCDや教科書を用い、「上手な話し合い」として「考えの同じところや違うところをはっきりさせる」という方法を学習させる。
- ②考えの共通点や相違点が見つかったら、合意形成や次の話題の提示ができる。反対に、見つからないと沈黙が続いてしまったり、じゃんけんや多数決でしか決められなくなったりする。実際にこのような場面を客観的に見ることで、①で学んだ方法の必要性を実感させることができる。

授業の様子



シーンとしてしまったぞ。
さっき〇〇さんと△△さんの考えが違ったから、そのことについて話し合ったらいいと思うな。

(期待される児童の姿)

客観的な立場をとることで、話し合いに参加しているときよりも落ち着いて意見を聞くことができる。そのため、的確に考えの共通点・相違点をとらえられ、その必要性に気付くこともできる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

意見を表に整理しながら話し合わせる。

- 活動のねらい▶
- 考えの共通点・相違点を見つけて、話し合いにいかす。

ここがポイント

グループの代表が、話し合いの中で出た意見の「一番伝えたいこと」の部分を表に書く。他の意見が出た際に、表に書かれた意見と照らし合わせ、共通した考えか相違した考えかを判断して表に書き加えていく。頭の中だけでは整理が難しいことや覚えていられないことも、表を用いることでグループ全員が共有することができる。

授業の様子

⑤	④	③	②	①	2
	図書 の ル ー ル を 教 え る。	多 す き で き な い	本 の し ら る い を せ つ め い	本 が 何 き つ あ る か い う	本 の か り 方 を せ つ め い す る

※学校生活について園児に知ってもらうため、説明する内容を話し合う場面

③で反対意見が出ているな。
次は「本の種類を説明するかどうか」について話し合おう。

(期待される児童の姿)

意見が出る度にすでに同じ考えが挙がっていないか確認することで、共通点を見つけながら話し合うという意識が根付く。相違点がはっきりするため、次に話し合うことの話題提示にもつながる。

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。

具体的なつまずきの姿

- ・何でもメモしようとして、大事なことを聞き落としてしまうメモになる。
- ・メモはしているが、整理の仕方が不十分で、話のまとまりがとらえられていないメモになる。
- ・聞きながらメモを取ることに追いつけず、途中で書ききれないメモになる。

実践の概要

単元名

大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう

『聞き取りメモの工夫』光村図書

- 目標**
- ・話を聞き、要点をメモに取る。
 - ・目的や必要に応じて情報を聞き分け、自分にとって大事なことを聞き取る。
- 内容**
- ・メモを取った経験について話し合う。
 - ・メモを取ってみる。
 - ・メモの工夫について話し合い、まとめる。
 - ・実際の場面でいかす。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・話の中心である大事なことを聞き落とさずに、自分にとって必要な情報を聞き取れる。
- ・聞きながらメモをする中で、メモを書くときの工夫と、後で見直したときにわかりやすくなっているメモの工夫を使うことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

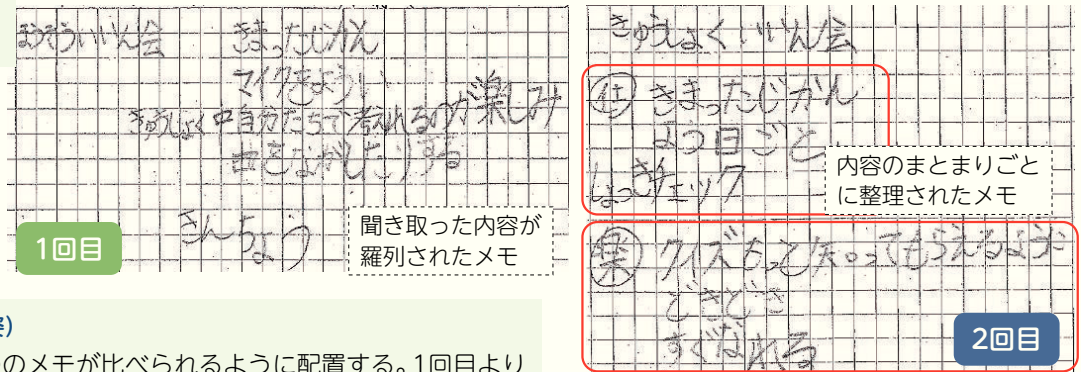
同じ構成で内容を変えた説明を聞き、メモを取って比べる活動を行う。

活動のねらい ▶ 1回目の聞き取りメモと、2回目の聞き取りメモを比べ、自分のメモが工夫を勉強したことでより良くなったことを実感する。

ここがポイント

説明はゆっくりと話し、話のまとまりがとらえやすい構成にして用意する。1回目と2回目は、同じ構成で内容を変えた説明にする。そうすることで、工夫を話し合った後、2回目の説明を聞きながら、余裕をもって、まとめた工夫をいかしながらメモを取ることができる。

メモの変化



(期待される児童の姿)

ワークシートも2つのメモが比べられるように配置する。1回目よりも2回目の方が、話のまとまりで整理するという工夫をいかし、話のまとまりがとらえられているメモを書けるようになったことを実感させる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

友達のメモや、教科書のモデルメモから工夫を見つけ、話し合う活動を行う。

活動のねらい ▶ 友達のメモや、教科書のモデルメモから工夫を見つけることで、キーワードを書くなどの聞きながらメモを取る工夫と、内容ごとに整理するなどの後から見やすいメモにする良さを知る。

ここがポイント

班の中で自分のメモの工夫を紹介し合う。そして、全体には、班の中で最も工夫されたメモを紹介させる。発表では、その工夫をした理由を話させるようにする。また、全体では、教科書のモデルメモを提示し、友達同士では見つからなかった工夫を見つけさせる。それでも見つからない時は、教師が示す。

授業の様子



(期待される児童の姿)

なぜその工夫がいいのか理由をはっきり話すことで、「聞きながら取れる工夫」なのか、「後で見やすい工夫」なのかが伝わり、他の児童も理解しやすい。2回目を行う前には、児童にどの工夫を使って取り組むのかを決めてからメモをするように指示すると理解しやすい。

話すこと・聞くこと

相手の意図をとらえながら聞き、目的に応じて、自分の考えを話すこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。

- (☆小学校の課題について)
- A あいさつをしない。
 - B 悪口を言う人がいる。
 - C 廊下を走る人がいる。

相手の話の意図や要点をとらえられていないため、共通点を見つけられない。
(安易に結論を出してしまう)

司会：私たちのグループでは、どの課題について取り組めばよいと思いますか。
B：Aさんが言ったあいさつがいいと思います。あいさつをしない人がいると嫌な気分になるからです。
C：私はやはり廊下を走ることが問題だと思います。
司会：あいさつという意見が多いようなので、あいさつに決めたいと思います。

実践の概要

単元名

田鶴野小を良くするために提案書を書こう

『明日をつくるわたしたち』光村図書

目標 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。

- 内容
- ・課題に対する自分の考えをもつ。
 - ・モデル文から、話し合い方を学ぶ。
 - ・共通点を探しながら話し合い、意見をまとめる。
 - ・提案書を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・意見が異なる場合に、考えの理由や願いを聞き合い、共通点を見つけ、意見をまとめることができる。
- ・相手の話の意図や要点を意識して聞き、話し合うことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

異なる意見から、お互いの共通点を探させる。

活動のねらい▶ 理由や願いを聞き合うことで、共通点を見つける。

ここが
ポイント

表面的に意見が異なる場合でも、「なぜそう考えたか」という理由や願いを、さらに聞き合うことで、共通点を見つけられることを児童に理解させたい。そのために、話し合いの場面の実例を提示し、実際に共通点を見つける練習を行うことが効果的である。

授業の様子



話し合いの場面の実例
3人の共通点は何か？

(期待される児童の姿)

意見が異なる場合に、話し合いが止まったり、安易に多数決で決めたりすることが散見されるが、理由や願いを聞き合い、共通点を見つける方法を学ぶことで、メンバー全員の考えをいかそうと話し合う姿勢が見られるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

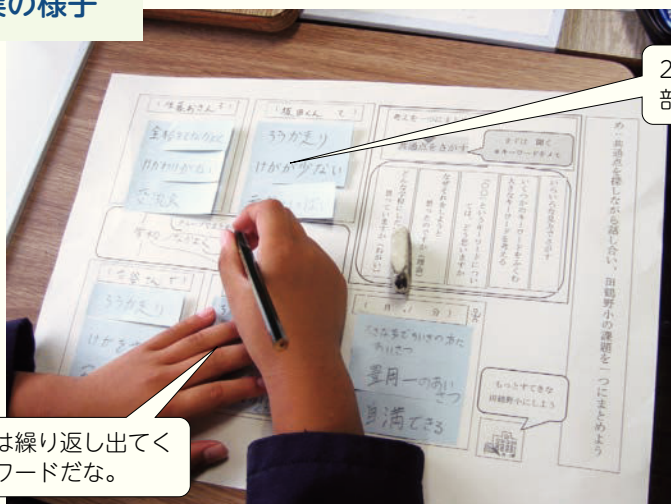
付箋にメモをしながら、相手の話の要点を意識して聞くようにする。

活動のねらい▶ 付箋にメモをしながら聞き、相手の話の要点や意図をつかむ。

ここが
ポイント

共通点を見つけ意見をまとめるためには、相手の話の要点や意図をつかむことが欠かせない。そこで、付箋にメモしながら相手の話の要点や意図を聞く活動を行う。付箋を操作しながら、お互いの意見の共通点を探ることができ、特に、聞くことに課題のある児童には、自分の考えを構成する上での手がかりとなる。

授業の様子



2人の意見は、「安全」という部分では共通しているぞ。

「安全」は繰り返し出てくるキーワードだな。

(期待される児童の姿)

付箋にメモをし、話し合いを可視化することで、話し合いに積極的に参加できる児童が増える。異なる意見から、お互いの共通点を探し、意見をまとめるためには、「相手の話の要点や意図を意識して聞く」ことが重要であると児童が実感し、児童の聞き方に変容が見られる。

話すこと・聞くこと

第6学年

話し手の意図をとらえながら、自分の考えを明確にして助言すること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られますか？～

話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。

スマホは持たないほうが良いと思います。ゲームやメールで時間がとられるからです。

他の理由についても付け足したほうがいいよ。

スマホを持って良いと思います。わからないことも簡単に調べられて便利だからです。

スマホで調べても身に付かないのではないですか。

確かに、これはいい質問だね。

聞く観点があきらかにしていないため、的確な助言ができていない

話し手の意図をとらえ、自分の考えを明確にして、助言ができていない

実践の概要

単元名

立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう

『学級討論会をしよう』光村図書

目標 評価をしながら討論を聞き、助言をすることができる。

内容 ・聞くための観点と適切な助言とはどのようなものなのかを話し合っ

- ・1回目の討論会を行う。
- ・観点に沿って評価をし、助言をすることができるように考えをまとめる。
- ・助言を受けて2回目の討論会をする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書く	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・聞く観点をもつことで、評価しながら聞くことができるようになる。
- ・話し手の意図をとらえ、自分の考えを明確にして、適切な助言ができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

評価をしながら討論を聞くために、観点についてグループで話し合う活動を行う。

活動のねらい▶ ・評価をしながら討論を聞くことができる。

ここがポイント

「聞くポイント」を明確にするために、次のような活動を行う。

- ① 討論会のモデルCDの内容を活字に表し、それを追いつながら、「主張と根拠にずれがない」「具体例を挙げている」など、上手な主張や質問のしかたを見つけて付箋に書く。
- ② 書いた付箋をグループで出し合って整理をする。
- ③ どんなことに気を付けて聞くとよいかを話し合い、「聞くポイント」としてまとめる。

授業の様子

質問に対する答えになっているか。

主張に矛盾点はないか。

主張と根拠にずれはないか。

根拠に説得力があるか。

具体例を挙げているか。

情報収集ができていますか。

(期待される児童の姿)

討論会でのそれぞれの立場(肯定側、否定側、聞く側)の主張や質問について、観点を明確にすることにより、評価をしながら聞くことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

★主体的な学びにつながる実践

討論を聞き、どのように助言をすればよいかを考える活動を取り入れる。

活動のねらい▶ ・相手の立場に合わせながら助言をすることができる。

ここがポイント

どのように助言をすればよいかをとらえるために、次のような活動を行う。

- ① グループでミニ討論を行い、お互いに助言を試みる。
- ② 助言をするときには、どのようなことに気を付けてよいかを話し合う。
- ③ 「助言をするときのポイント」として掲示する。

授業の様子

例えばこんなふうによれば…というような改善策まで助言をしてもらえると、課題を解決するときに役に立つよね。

悪い点だけでなく、良い点も認めて助言をしてくれたので、受け入れやすい気持ちになったよ。

助言が、主張の仕方に偏っていたので、内容や構成についても助言ができるようにするといいな。

(期待される児童の姿)

自分達で「聞くポイント」や「助言をするときのポイント」を考えることで、相手の立場に合わせながら、見通しをもって討論を行ったり助言を行ったりすることができ、主体的な学びにつながる。